

# はじめに

- 2022年の防衛力整備計画に基づき防衛力の抜本的強化
- 新たな防衛力整備計画を2026年度中に策定
- 現代戦の「新たな戦い方」に対応した防衛力整備
- 現代戦における「新たな戦い方」とは？
- 現代戦における航空防衛力の役割は？
- “航空優勢の時代の終わり”を示したのか？
- “航空優勢をとれない軍隊は決定的勝利を得られない”ことを示したのか？
- 無人アセットは航空作戦をどう変える？
- “無人アセットの登場で有人機の時代は終わり”を迎えるのか？

出典 防衛省

ウクライナ侵略が明らかにした  
**「新しい戦い方」への対応が不可欠！**

—— “新しい戦い方”とは？ ——

01 大量の無人機  シヤヘド型無人機	04 宇宙・サイバー・電磁波 情報戦  「スターリンク」衛星
02 複合的な攻撃に対する 防空能力  パトリオット	05 紛争の長期化と 防衛産業の重要性  ウクライナ国産巡航ミサイル「Flamingo」
03 テータ・AIの活用  状況監視システム 「デルタ」	06 同盟国・同志国からの支援  アメリカ軍の装備品 HIMARS

詳しくは資料をご覧ください

# AIR DENIAL

## 航空拒否

相手による航空戦力を制する

# AIR SUPERIORITY

## 航空優勢

空を支配し、自由に作戦を実施する

# 現代戦の教訓からの航空防衛力のあり方

ドローン / UAS

敵航空機の侵入を阻止・抑制  
低空侵入を強いられる

早期警戒レーダー

## 1 航空拒否と航空優勢

長射程 SAM  
(地对空ミサイル)

## 2 エピック・フューリー作戦における航空作戦

中・短射程 SAM  
(地对空ミサイル)

## 3 無人アセットの航空作戦への適用

電子戦 シヤミフク

早期警戒管制機  
(AWACS)

戦闘機による  
制空艦隊 (C2)

SEAD/DEAD  
敵防空の創亡・撃破

空中給油機  
(AAR)

統合指揮統制・情報共有  
(C2 / ネットワーク)



航空拒否 (AIR DENIAL)

## 4 A2AD環境下における防衛作戦への示唆

- 敵の航空・無人機作戦を制する
- 脅威圏の拡大と多層防空による抑止
- 相手の作戦自由を制限・コストを増大

### CONTROL OF THE AIR

The Choice Determines the Outcome



航空優勢 (AIR SUPERIORITY)

- 敵の航空戦力を撃破・無力化
- 空を支配し、自由に作戦を展開
- 自軍のあらゆる作戦を優位に実施

# 1 航空拒否と航空優勢

# AIR DENIAL

## 航空拒否

相手に自由な航空行動を許さない



ドローン / UAS



敵航空機の侵入を阻止・抑制  
低空侵入を強いられる

早期警戒レーダー



中・短射程 SAM  
(地対空ミサイル)



長射程 SAM  
(地対空ミサイル)



電子戦・ジャミング



# AIR SUPERIORITY

## 航空優勢

空を支配し、自由に作戦を実施する

早期警戒管制機  
(AWACS)



戦闘機による  
制空艦隊 (SCF)



SEAD/DEAD  
敵防空の創亡・撃破



空中給油機  
(AAR)



統合指揮統制・情報共有  
(C2 / ネットワーク)



### 航空拒否 (AIR DENIAL)

- ・敵に高空・自由飛行を許さない
- ・脅威圏の拡大と多層防空による抑止
- ・相手の作戦自由を制限・コストを増大



### 航空優勢 (AIR SUPERIORITY)

- ・敵の航空戦力を撃破・無力化
- ・空を支配し、自由に作戦を展開
- ・自軍のあらゆる作戦を優位に実施

**CONTROL OF THE AIR**  
The Choice Determines the Outcome

# 1 航空拒否と航空優勢

- 航空拒否の意義

- 重層的な防空戦力により敵の航空侵攻を食い止め航空優勢を与えない
- 生存やコスト負担を主眼とする国にとって効果的な防衛戦略
- ウクライナが航空戦力の優位なロシアの侵略から生き残るためには必要不可欠な戦略
- 大規模かつ多層的な防衛体制は、敵の行動の自由を長期間にわたって阻止し戦局を左右する可能性

- 航空優勢の意義

- 航空優勢とは特定の場所と時間において敵の航空およびミサイル脅威に妨害を受けることなく作戦を遂行できる空中における優勢の程度
- 陸軍、海軍の機動を可能にするだけでなく、空軍による攻撃、戦略的効果の行使、そして戦争に勝利するための目標達成を可能
- 航空戦力を決定打として使用するための前提条件

# 航空拒否と航空優勢の比較

戦いの目的は「相手を飛ばさないこと」ではなく「自ら自由に行動し、目的を達成すること」

## Air Denial (航空拒否)

相手の航空行動を制限するが、自軍も自由を得られない

- 相手に自由を与えない (拒否)
- 自軍も自由に行動できない
- 相互拒否の状態に陥りやすい

✕ 支配ではなく  
拒否

相互にリスクが高く、自由に飛行できない



地上配備型防空  
(SAM・レーダー)



戦闘機による迎撃



地对空ミサイル・  
ドローンの大量運用



電子戦・妨害  
による接近拒否

基本概念

空の状態  
(イメージ)

主な手段

作戦への  
影響

典型例

帰結  
(戦略的結果)

- 航空支援が制限され、地上作戦が遅鈍化
- 縦深打撃や機動が困難
- ISRや補給線攻撃が限定的
- 消耗が長期化し、膠着状態に陥りやすい

自由の欠如 =  
制約された作戦

- ウクライナ戦争 (2022~) : 双方が強力な防空により相互に航空行動を阻害
- 朝鮮戦争の一部局面、イラン・イラク戦争初期 など



膠着・消耗・長期化

勝利が遠のき、コストだけが增大する

## Air Superiority (航空優勢)

自軍が相対的に自由に行動でき、作戦の主導権を握る

- 自軍が相対的に自由に行動可能
- 時間的・局地的でも十分に価値がある
- 主導権を確保し、作戦目的を達成する

○ 自由の創出と  
支配

自軍は自由に行動し、相手は制約を受ける



制空戦闘機  
(有人/無人)



長距離精密打撃  
(スタンド・イン、ミサイル等)



EW・サイバー・宇宙  
による優勢獲得



統合ISRによる  
状況把握と標的攻撃

自由の確保 =  
作戦の主導権

- 縦深打撃により指揮統制・補給を破壊
- 地上作戦を加速・拡張可能
- ISRの持続運用で相手の自由を奪う
- 作戦のテンポを自らのペースで創出

- 湾岸戦争 (1991) : 連合軍が制空権を確保し、圧倒的な作戦自由を獲得
- コンボ空爆 (1999)、イラク戦争 (2003) 初期 など
- NEW!** イラン・イスラエル戦争 (2025) : イスラエルが制空優勢を確保し、イラン国内の防空網・指揮統制拠点・核関連施設を自由に縦深攻撃



決定的勝利の可能性

作戦目標を達成し、戦争を早期に終結させる

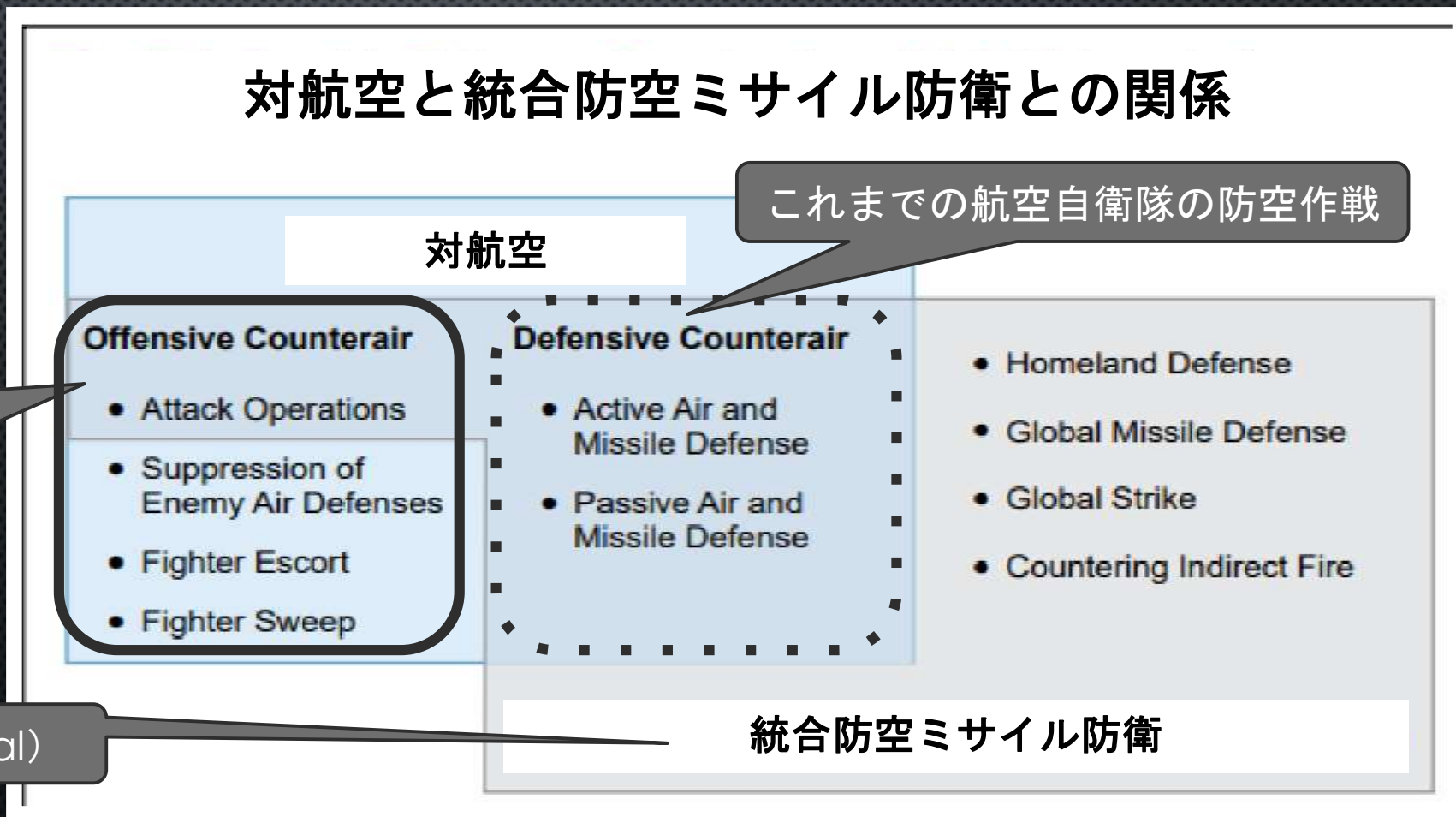
キーメッセージ : Air Denial は「相手を止める」戦い、Air Superiority は「自らの目的を達成する」戦いである。

# 1 航空拒否と航空優勢

- 航空拒否 ≡ 統合防空ミサイル防衛作戦
- 航空優勢獲得 ≡ 攻勢対航空作戦

出典 AFDP3-01

↓  
装備体系には大きく異なる



航空優勢を獲得するための敵航空戦力に対する攻勢作戦

これまでの航空自衛隊の防空作戦

航空拒否 (Air Denial)

統合防空ミサイル防衛

## 2 エピック・フューリー作戦における航空作戦

# エピック・フューリー作戦における航空作戦

- 作戦の目的（公海情報等からの推定）
  - イラン政権の統治能力・軍事能力を低下させる。  
⇒イラン政権に立ち向かう国民の蜂起（トランプ大統領が呼びかけ）
- 作戦の目標
  - 政権の指導体制を目標とした斬首作戦
  - イラン防空戦力の弱体化による航空優勢の獲得  
⇒イラン国内における航空攻撃の自由度の確保
  - イランの報復攻撃能力の無力化  
⇒IAMDの弾薬が無くなる前の報復攻撃の無力化
  - イラン治安機関の無力化  
⇒国民に対する弾圧をなくして国民の蜂起を支援
  - イランの海上作戦能力の弱体化
  - イランの核開発能力の排除

# 防空戦力の弱体化・航空優勢の獲得

- 主目標

- S-300等のSAMサイト
- 防空レーダー
- 防空指揮統制施設等

- 3月2日にイラン西部と首都テヘラン周辺で局地的航空優勢を獲得（ダン・ケイン大将）

- ⇒ 以後、第4世代機がイラン国内の攻撃に使用可

- ⇒ 3月12日、イランの防空システムの最大80%を破壊（イスラエル発表）

- 4月2日、イラン防空部隊が、F15EおよびA10を撃墜

- ⇒ 4月4日、RSARにより搭乗員を救出

# 弾道ミサイル等による報復攻撃能力の弱体化

- 主目標

- BM発射装置
- BM基地
- BM等の保管、備蓄、生産施設
- 指揮統制施設
- 発射支援インフラ
- ドローン基地

- イラン西部のミサイル基地等
- イラン全土のミサイル基地等
- ミサイル等貯蔵施設
- ミサイル等生産工場等

# 弾道ミサイル等による報復攻撃能力の弱体化

- イランの報復攻撃→右図
  - イスラエルに向けてミサイル攻撃
  - 中東地域の米軍基地を攻撃  
(バーレーン、カタール、UAE、クウェート、ヨルダン、サウジアラビア)
- 3月4日、弾道ミサイル発射数が開戦以来86%減少し、過去24時間では23%減少
- 3月5日、弾道ミサイル発射数が90%減少、ドローン発射数が83%減少
- 発射機の75%を破壊
- 3月9日、イスラエルに向け3回の攻撃、ミサイル数は過去最低、クラスター弾頭搭載
- 3月13日、ミサイル生産能力を無力化

# 弾道ミサイル等による報復攻撃能力の弱体化

- UAEに対するBM、CM、ドローンによるイランの報復攻撃数の推移
  - 3月10日の時点で、262発のBMのうち241発を迎撃、迎撃率は92%
  - 迎撃していない21発のうち領土に着弾したのは2発のみ
  - 米国の防空システムを標的にするも目的は達成できず
  - ドローンは依然脅威であり、戦闘機、攻撃ヘリ、機関砲により迎撃

# イランの治安機関等への攻撃

- トランプ米大統領が軍事作戦開始と同時にイラン国民に対して政権に立ち向かうよう呼びかけ
- イラン国内の反体制運動を抑圧する政権の能力の弱体化を目的として治安インフラを攻撃
- 体制維持能力、国内鎮圧能力、政治統制能力の弱体化を目的として、バシジ基地、暴動鎮圧本部、各州法執行機関、サイバー警察、IRIB放送局などを攻撃

# その他の攻撃

- イラン海軍への攻撃
  - ・ イラン海軍艦艇および基地等を攻撃し、ホルムズ海峡を含む海上における作戦能力を弱体化
- 後方補給路への攻撃
  - ・ イラン国内の軍事装備などの輸送に使用している鉄道および道路を攻撃し、後方補給活動を停滞・遅滞
- 核関連施設への攻撃
  - ・ 核関連施設の本格的破壊のための攻撃と言うよりは同施設の防衛能力の弱体化を実施

# 米・イスラエルによる対イラン航空作戦の全体像 (2/27~4月上旬)

— 開戦72時間の防空制圧 → 航空優勢下での多目的攻撃 —

① 開戦~72時間  
(2/27~3/1)

イラン防空部隊への  
集中的航空攻撃

② 航空優勢確立  
(3/2)

イラン西部・テヘラン上空で  
航空優勢(制空権)を獲得

③ 能力弱体化フェーズ  
(3/3~3/10)

弾道ミサイル/ドローン戦力の  
弱体化を主眼に攻撃拡大

④ 持続攻撃・拡大  
(3/11~4月上旬)

治安機関・海軍・後方補給(鉄道/陸上輸送)  
への継続攻撃

## 開戦初期72時間 (2/27~3/1) 防空制圧作戦

2/27

- 作戦開始宣言
- 司令部・指導者層への精密攻撃開始

2/28

- イラン西部のミサイル発射装置群を含む「数百の軍事目標」を同時攻撃
- 主要防空レーダー/地对空ミサイル拠点を集中的に無力化

3/1

- テヘラン周辺の防空網をほぼ制圧
- 指揮統制ノードを破壊 → 航空優勢の基盤確立

## イラン西部・テヘラン上空での航空優勢を獲得



## 時期

主要作戦内容(航空優勢下での自由度を活用)



## 4月上旬 持続攻撃フェーズ

- 残存ミサイル発射拠点の掃討
  - 治安維持能力(バシジ/LEC)の継続的無力化
  - 港湾・海軍施設の機能停止維持
  - 鉄道・道路補給網の寸断
- ↓
- イランの反撃能力を体系的に段階的縮小**

## 作戦効果の時系列

防空壊滅  
(~3/1)

航空優勢確立  
(3/2)

ミサイル/ドローン  
発射能力 低下  
(3/3~3/10)

治安機関  
機能不全化  
(3/3~3/15)

海軍力  
行動不能化  
(3/2~3/8)

後方補給  
寸断  
(3/5~4月上旬)

凡例

- 航空攻撃の重点
- 時系列の進行
- 輸送/補給ルート

# エピック・フューリーにおける航空優勢

- イランの防空網を制圧し航空優勢を獲得
    - 第5世代航空機に加え第4世代戦闘機等をイラン国内で使用することが可能
  - 航空優勢の下、イラン全土の目標を自由に攻撃
    - 弾道ミサイル等による報復能力の弱体化を所望の期間内に達成
    - イラン全土に存在する治安機関等への攻撃を実施し国民に対する弾圧能力を弱体化(戦争の目的との整合性の評価が必要)
- イランの大量のドローンとミサイルによる攻撃は、敵対勢力に負担を強いるものの、航空優勢の獲得につながるものではなく、航空優勢を握った敵の攻撃を阻止することはできない。

### **3 無人アセットの航空作戦への適用**

### 3 無人アセットの航空作戦への適用

航空戦力は技術革新から生まれた。

新技術を効果的に統合した軍隊はライバルに対して優位に立ってきた。

逆に古い考えや時代遅れの戦略に固執した軍隊は戦場で敗北した。

「勝利は戦争の性質の変化を予測する者に微笑むのであって、

変化が起こってから適応するのを待つ者には微笑むものではない。」

ジュリオ・ドゥーエ

### 3 無人アセットの航空作戦への適用

- 無人アセットを航空作戦に統合するため、質問を通じてドクトリンとの関係を再定義  
(ルメイ・センター)

⇒無人アセットは、攻撃を優先するのか、防御を優先するのか？

- ・ 長距離攻撃型ドローンは小さな巡航ミサイル（探知が困難、攻撃力が小）
- ・ 安価で操縦者の損耗が無く損耗を前提とし短期的に大量投入が可能
- ・ 大量投入により防空網を突破するとともに防空用弾薬の消耗を強要
- ・ 安価なドローンを高価な防空ミサイルで迎撃するという費用対効果のジレンマ

#### ➤ 攻撃への使用に新たな利点

⇒無人アセットは、航空戦力の本来の利点を無効にするのか、強化するのか？

- ・ 突破力、機動力、打撃力といった航空戦力の本来の利点を凌駕するものではない
- ・ 有人機との連携により数的戦力を大幅に強化する可能性

### 3 無人アセットの航空作戦への適用

⇒無人アセットは、C2の集中化を推進するか、分散化するか？

- ・相手の意思決定速度を上回るためC2は分散化
- ・集中化によるリモート運用は妨害などを受けるリスクが高くなり自立化じへの要求
  - キルチェーンを高速化し、レジリエンスを強化するために、C2の分散化を進展

⇒無人アセットは、従来の防御を回避するか？

- ・大量投入、低高度侵入、小RCSにより従来の防空システムを突破または回避
  - AI搭載した自立型ドローンは、防空態勢を回避し、効果的な攻撃を実施可

### 3 無人アセットの航空作戦への適用

⇒小型化は現在の防空の概念を否定するのか？

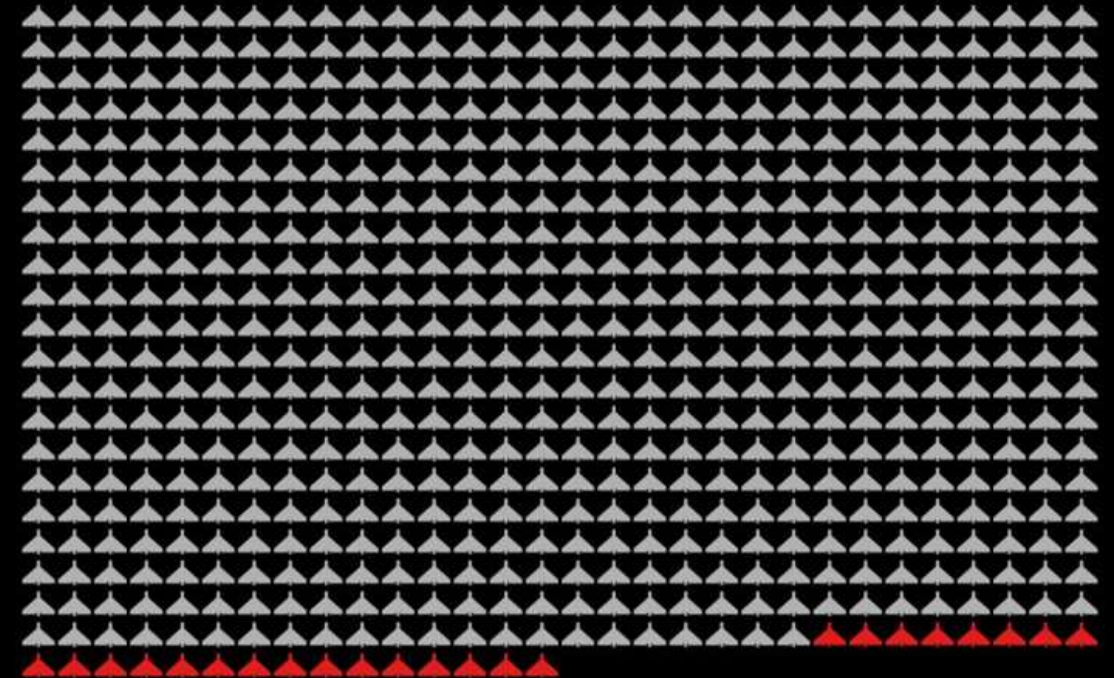
- ・小型化によるステルス効果で、**従来の防空体制では探知が困難**
- ・小型化により攻撃能力は減少

⇒自立型ドローンの急増は、航空優勢と空域管理の概念をどのように変えるのか？

- ・自立型ドローンによる攻撃を実施しても、**航空優勢が無いところでは効果が限定的**
- ・多種多様なドローンが、広域で使用された場合には、**敵味方識別を含めた空域管理が煩雑化**

# ロシア軍のウクライナに対するドローン攻撃（2026.5.16）

- 防空に守られた目標に対する無人機による攻撃は効果が限定的
  - 96パーセントが攻撃不成功
- 675機の攻撃のうち23機のみが成功
  - 繰り返されるロシアの攻撃
  - 国民の士気が挫けた戦いは無い
- 軍事作戦としては、航空優勢をとり、ミサイル攻撃、航空攻撃を行うべき



OVERNIGHT,  
RUSSIA LAUNCHED

**675** DRONES

UKRAINE SHOT DOWN  
OR SUPPRESSED

**652** OF THEM

# ウクライナ軍の 長距離無人機攻撃 (航空阻止) (2026.5.1~13)

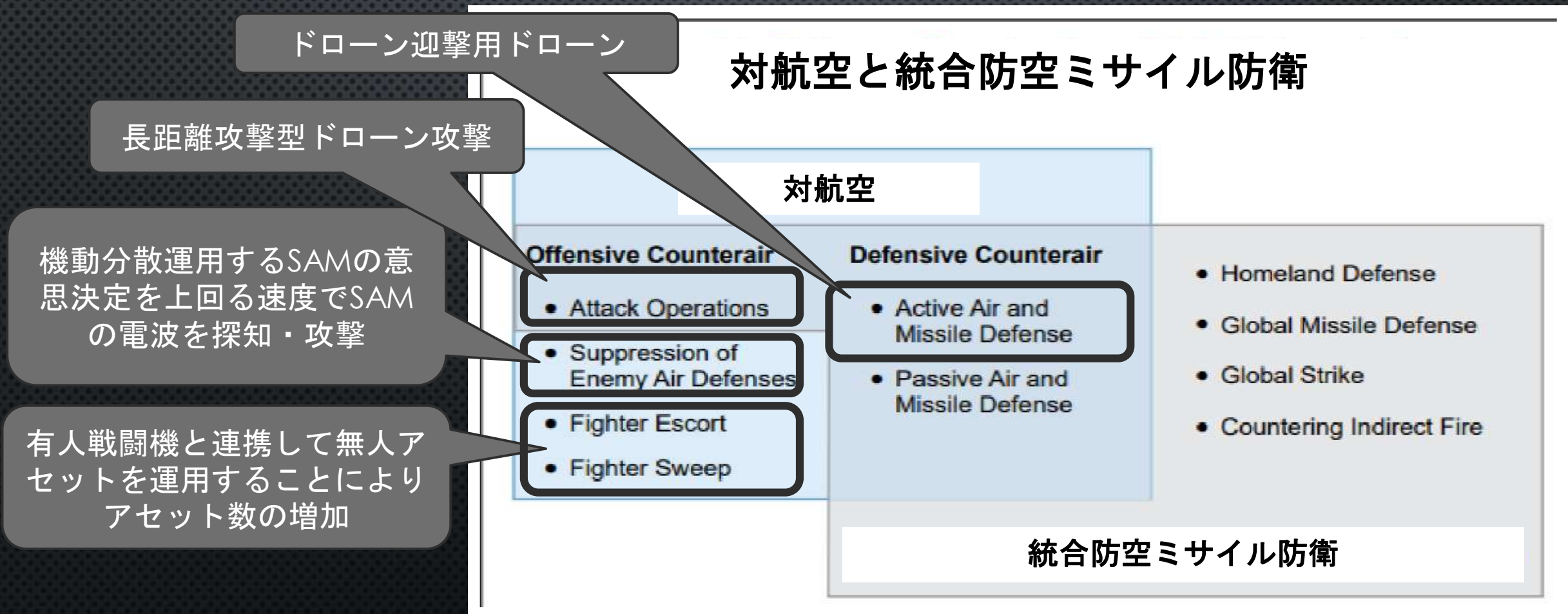
- 無人機は従来のセンサーで探知・追尾することが困難であり、難しいことから広域にある目標を防空作戦で守ることは困難
- 航空阻止での無人機の使用は、航空拒否戦略を強化



### 3 無人アセットの航空作戦への適用

- 統合航空作戦への無人アセットの適用

出典 AFDP3-01



## 4 我が国の防衛作戦への示唆

# 4 我が国の防衛作戦への示唆

- 中国の対日ミサイル脅威

⇒MRBM

TEL・・・150両

ミサイル・・・150～450発

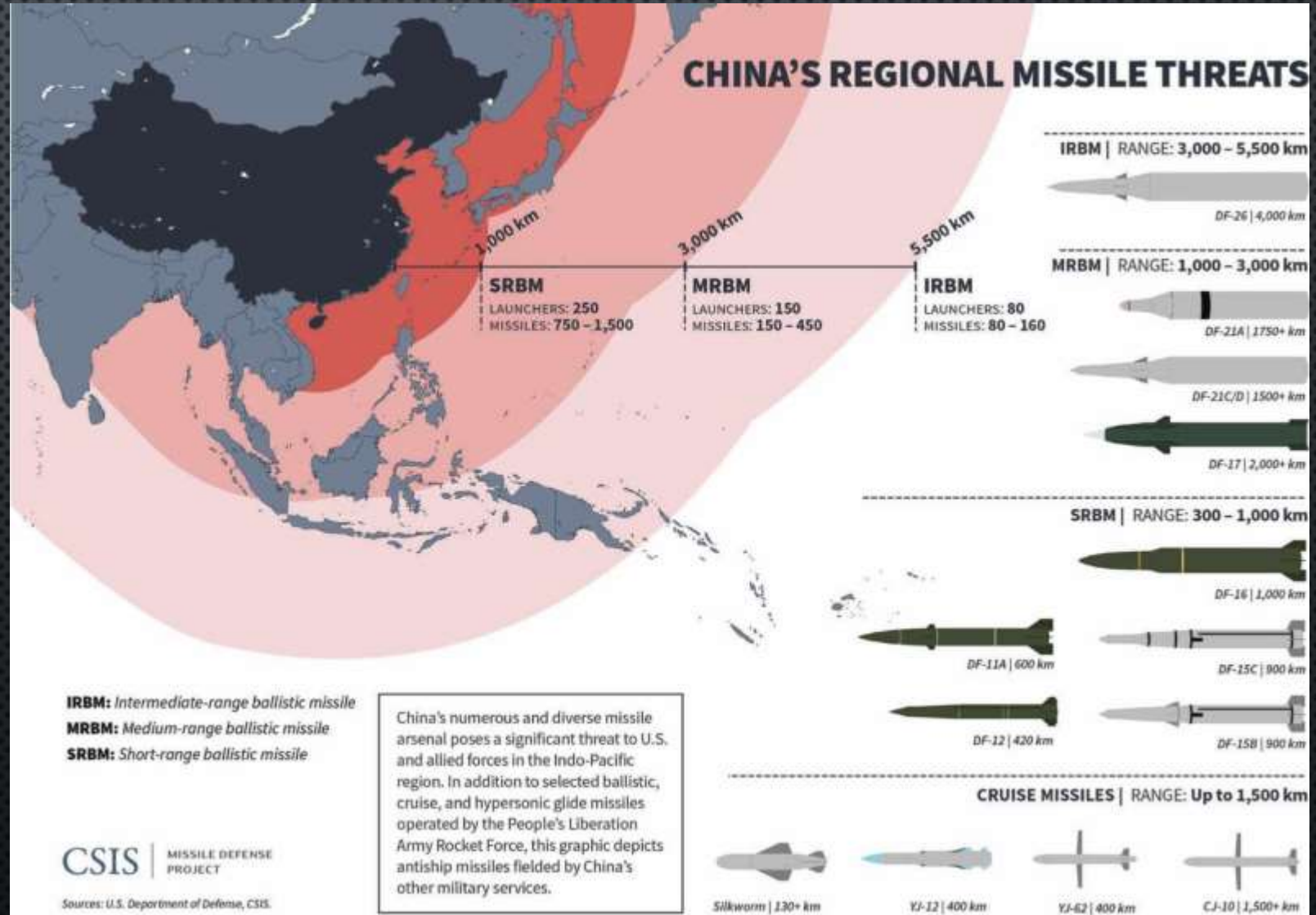
HGV・・・DF-17

⇒クルーズ・ミサイル

⇒ドローン？

- 中国の空母航空戦力による第1列島線外からの脅威

出典：US DoD、CSIS



## 4 我が国の防衛作戦への示唆

- 想定される戦域: 西太平洋であり広域、分散、長距離
- 課題
  - A2／AD環境
  - 太平洋方面の防衛体制
  - 大量のドローン攻撃の脅威
  - 作戦基盤のぜい弱性
  - 継戦能力の制約
- 必要な航空防衛力強化の方向性
  - 拒否戦略への過度の依存の排除と航空優勢獲得能力の保持
  - ドローン攻撃への対処体制の構築
  - 機動分散運用(ACE)による生存性の確保
  - フィジカルAI機能の航空防衛力への効果的統合

## 4 我が国の防衛作戦への示唆

- 統合防空ミサイル防衛 (IAMD)
  - ⇒BM,CM攻撃に対し、2層防衛体制 (SM-3, PAC-3 MSE)、SM-6、戦闘機による迎撃
  - ⇒空母航空戦力に対する太平洋方面の防空体制の確立が重要な課題
  - ⇒膨大な迎撃ミサイルの所要に対する強靱な後方補給が必要
    - ・ 備蓄、国内生産体制の確立、同志国を含めたサプライチェーンの確保
  - ⇒大量のドローン攻撃に対し、対処体制の構築が喫緊の課題



出典：防衛白書

## 4 我が国の防衛作戦への示唆

- スタンド・オフ防衛能力による反撃および遠距離防御

⇒防空で守られた中距離弾道ミサイルに対しスタンドオフ・ミサイルのみによる攻撃での効果は限定的（防空用弾薬の消耗は期待）

⇒反撃効果を上げるには、機動分散運用する地对空ミサイルを継続的に制圧し必要な局地的航空優勢を獲得するためにSEAD作戦の実施が必要

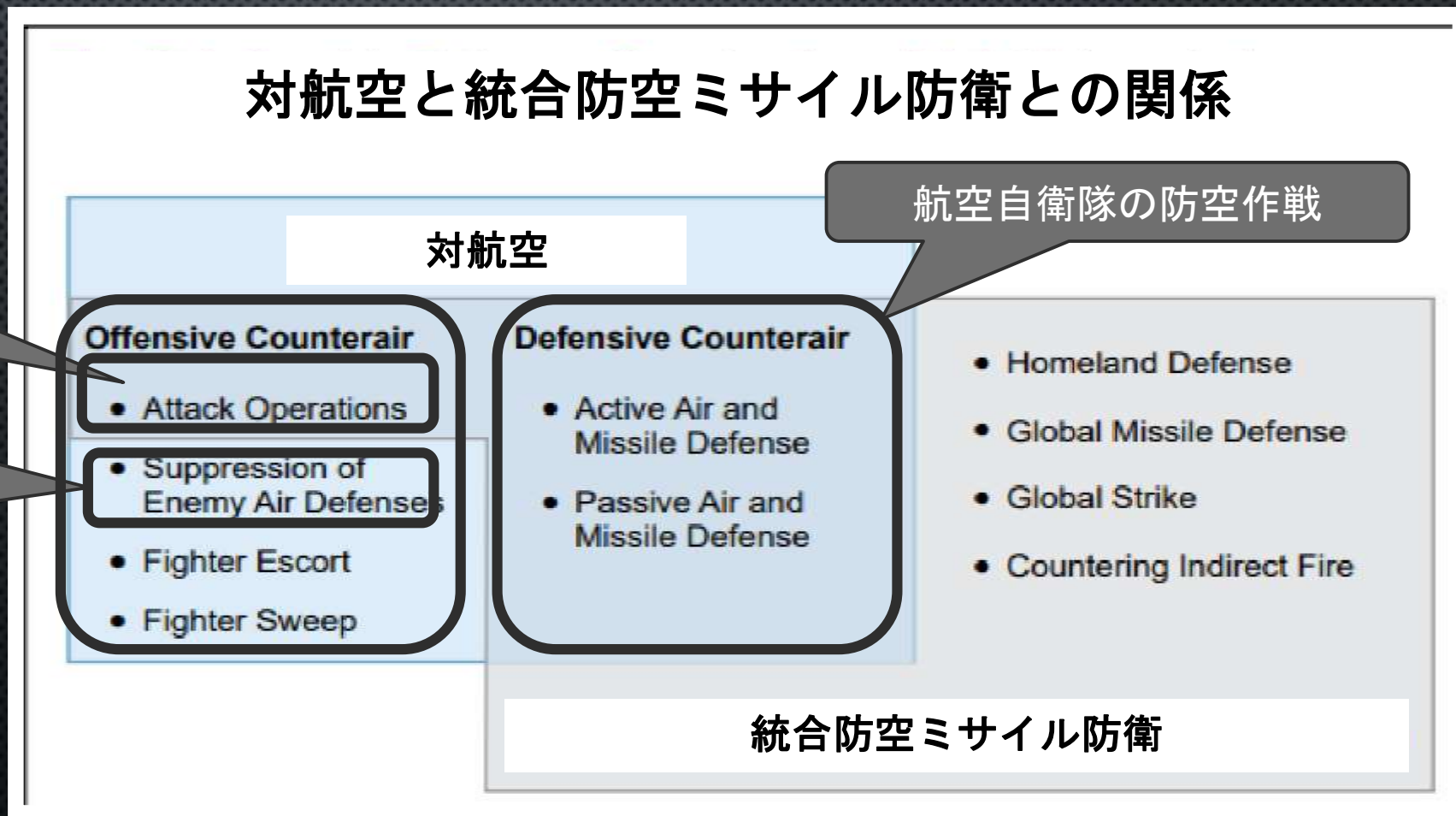
⇒SAGで守られた空母航空戦力への攻撃にあたり、SAGを排除して航空優勢を獲得する作戦が必要（SAGの排除は潜水艦攻撃が有効、艦艇の保有弾数は有限）

### ※ スタンドオフ防衛能力

- 12式地对艦誘導弾能力向上型（地発型・艦発型）
- 潜水艦発射型誘導弾
- 島嶼防衛用高速滑空弾
- 極超音速誘導弾
- トマホーク、JSM、JASSM

## 4 我が国の防衛作戦への示唆

- 反撃等の実効性を確保するために航空優勢獲得するための攻勢対航空作戦の実施
- SAMを排除するSEAD作戦能力の必要性
- CCAの使用によるSEAD能力の抜本的向上
- 米軍との連携
- 米軍との役割分担



# おわりに

===現代戦からの教訓===

「ドローンとSAMは航空拒否を強化した。

しかし、戦争の帰趨を決めるのは、なお航空優勢である。」

「航空拒否は相手の自由を奪う。

航空優勢は、自らの自由を創り出す。」

「そして戦争の勝敗は、“自由に行動できる側”が決める。」

# AIR DENIAL

## 航空拒否

# VS

# AIR SUPERIORITY

## 航空優勢

相手に自由な航空行動を許さない

空を支配し、自由に作戦を実施する

### 統合防空網 (IADS)

長射程レーダーと  
地对空ミサイルによる  
多層防空



### 地对空ミサイル (SAM)

長射程・中距離・短距離SAMによる  
重層的な脅威圏の形成



### ドローン/UAS

偵察・監視・攻撃用ドローンの  
分散運用による継続的な脅威



### 電子戦・ジャミング

レーダー妨害・通信妨害により  
敵の探知・指揮統制を阻害



### 対空火砲・MANPADS

近接防空による低空侵入への  
対処



侵入を強いられる敵機  
(自由な行動ができない)

長射程 SAM

中距離 SAM

短距離 SAM

対空火砲・MANPADS

自由に飛行し、  
作戦を主導



### 制空戦闘機 (CAP)

戦闘空中哨戒 (CAP) により  
敵航空勢力を排除・抑止



### 早期警戒管制機 (AWACS)

広域の状況把握と指揮統制により  
味方の優位を維持



### 空中給油機 (AAR)

戦闘機の航続距離・滞空時間を拡大し  
持続的な作戦を実現



### SEAD/DEAD

敵の防空網を制圧・破壊し  
自由な航空行動を確保



### C2・情報共有

統合指揮統制 (C2) により  
全領域で情報を共有・同期



### 航空拒否の目的

- ・敵に高空・自由飛行を許さない
- ・脅威圏の拡大と多層防空による抑止
- ・相手の作戦自由を制限し、コストを増大



### 航空優勢の目的

- ・敵の航空戦力を撃破・無力化
- ・空を支配し、自由に作戦を展開
- ・自軍のあらゆる作戦を優位に実施

空の支配か、拒否か。  
勝敗を分けるのは「空の使い方」

Control of the Air or Denial of the Air  
— The Choice Determines the Outcome.





ロケット軍司令部	パール	AR
第61基地 (弾道ミサイル)	第67基地 (核弾頭保管)	総合訓練基地
第62基地 (弾道ミサイル)	第68基地 (ロケット整備)	第308工程指揮部
第63基地 (弾道ミサイル)	第69基地 (訓練・研究)	ロケット軍研究院
第64基地 (弾道ミサイル)		金輪工程指揮部
第65基地 (弾道ミサイル)		ロケット軍指揮学院
第66基地 (弾道ミサイル)		ロケット軍工程大学
		ロケット軍士官学校

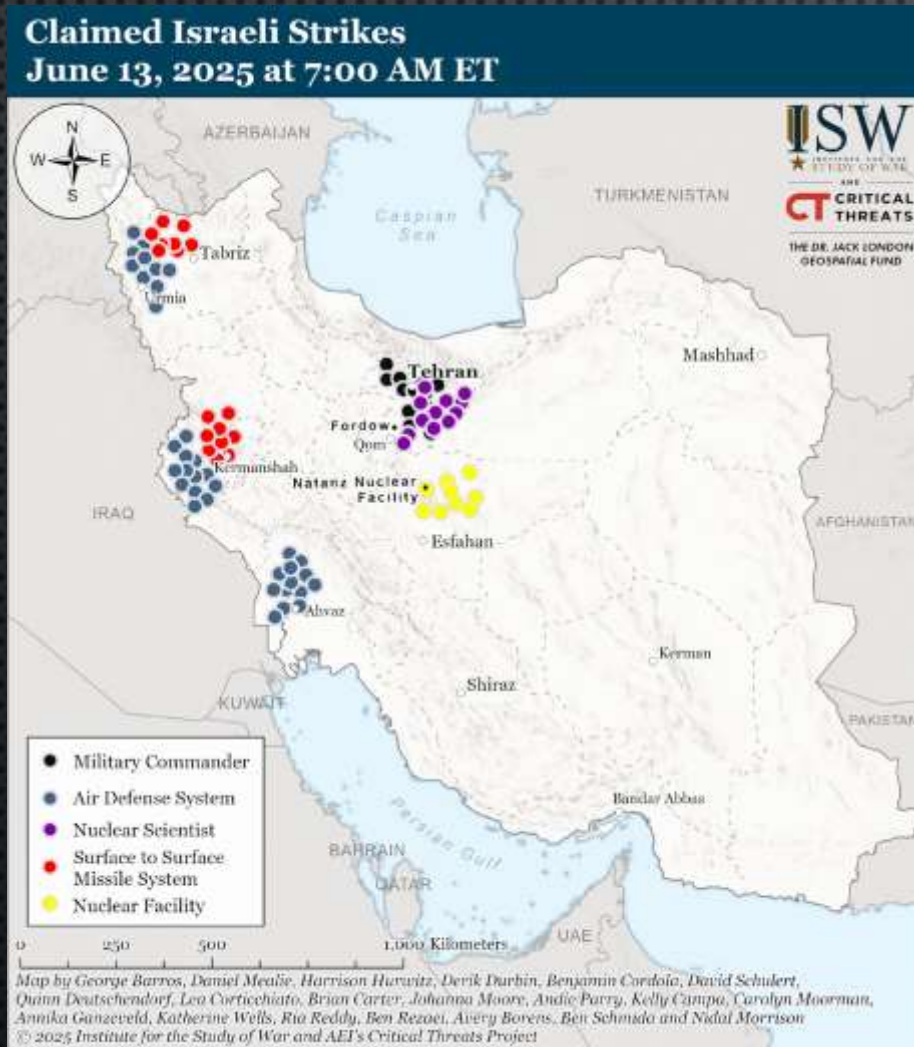
- 凡例—
- ★: 基地司令部
  - ★: ミサイル旅団司令部
  - : 第67~69基地隷下部隊 - ロケット軍
  - : ロケット軍の学校
  - ⊗: サイロ群
  - ◇: 衛星発射センター
  - ◇: 衛星観測制御センター
- 軍事宇宙部隊

\*: JASIリサーチメモ「中国におけるロケット軍建設—シリーズ⑥—中部戦区の組織編成及び部隊所在地について」(R06-10号 2025年2月26日)の3頁では、サイロ群の位置を吉蘭泰としていたが、杭錦に修正する。 3

## 2 イスラエルのイラン攻撃(ライジング・ライオン作戦)



### ● イスラエルの攻勢作戦 (6月12日)



➤ イラン防空能力の破壊 (航空優勢の獲得)

● イラン軍指揮官

● イラン軍防空システム

➤ イランの報復能力の破壊 (攻勢的IAMD)

● SSMシステム

➤ 核兵器開発能力の破壊

● 核関連技術者

● 核関連施設

## 2 イスラエルのイラン攻撃(ライジング・ライオン作戦)



- イランの報復能力を制限するためのイスラエルの攻撃(攻勢的IAMD、我が国の反撃能力)

⇒ 航空優勢を確保しつつ、イラン西部地区の約20カ所のMRBM基地を攻撃

⇒ イランはMRBM戦力を西部地区から中部地区に退避

⇒ 射程の短いMRBMが射程外

⇒ MRBM発射装置の約半数、35~45%のミサイルを破壊

⇒ イランには1,100発~1,300発の弾道ミサイルが残存  
飽和攻撃の能力は急速に低下



## 2 イスラエルのイラン攻撃(ライジング・ライオン作戦)



- イランの報復能力を制限するためのイスラエルの攻撃(攻勢的IAMD、我が国の反撃能力)
  - ⇒ 航空優勢を確保しつつ、イラン西部地区の約20カ所のMRBM基地を攻撃
  - ⇒ イランはMRBM戦力を西部地区から中部地区に退避
  - ⇒ 射程の短いMRBMが射程外
  - ⇒ MRBM発射装置の約半数、35~45%のミサイルを破壊
  - ⇒ イランには1,100発~1,300発の弾道ミサイルが残存  
飽和攻撃の能力は急速に低下

